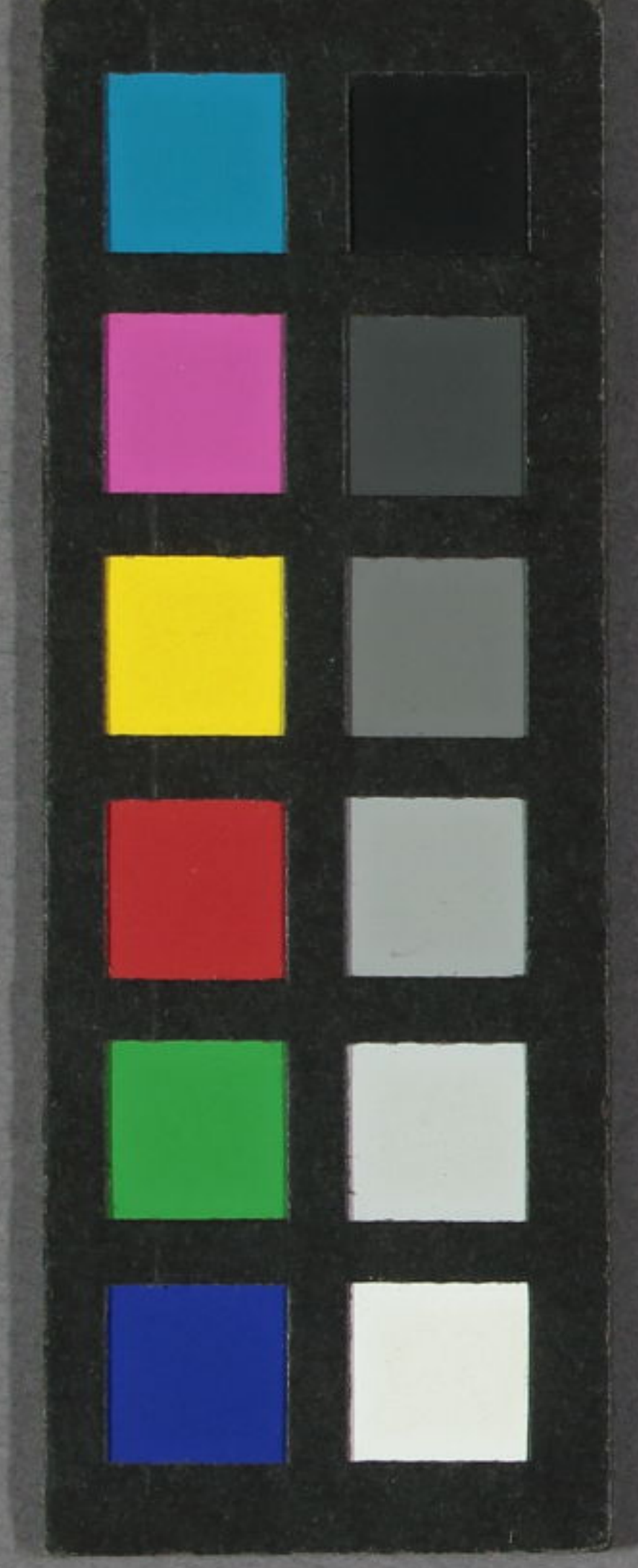
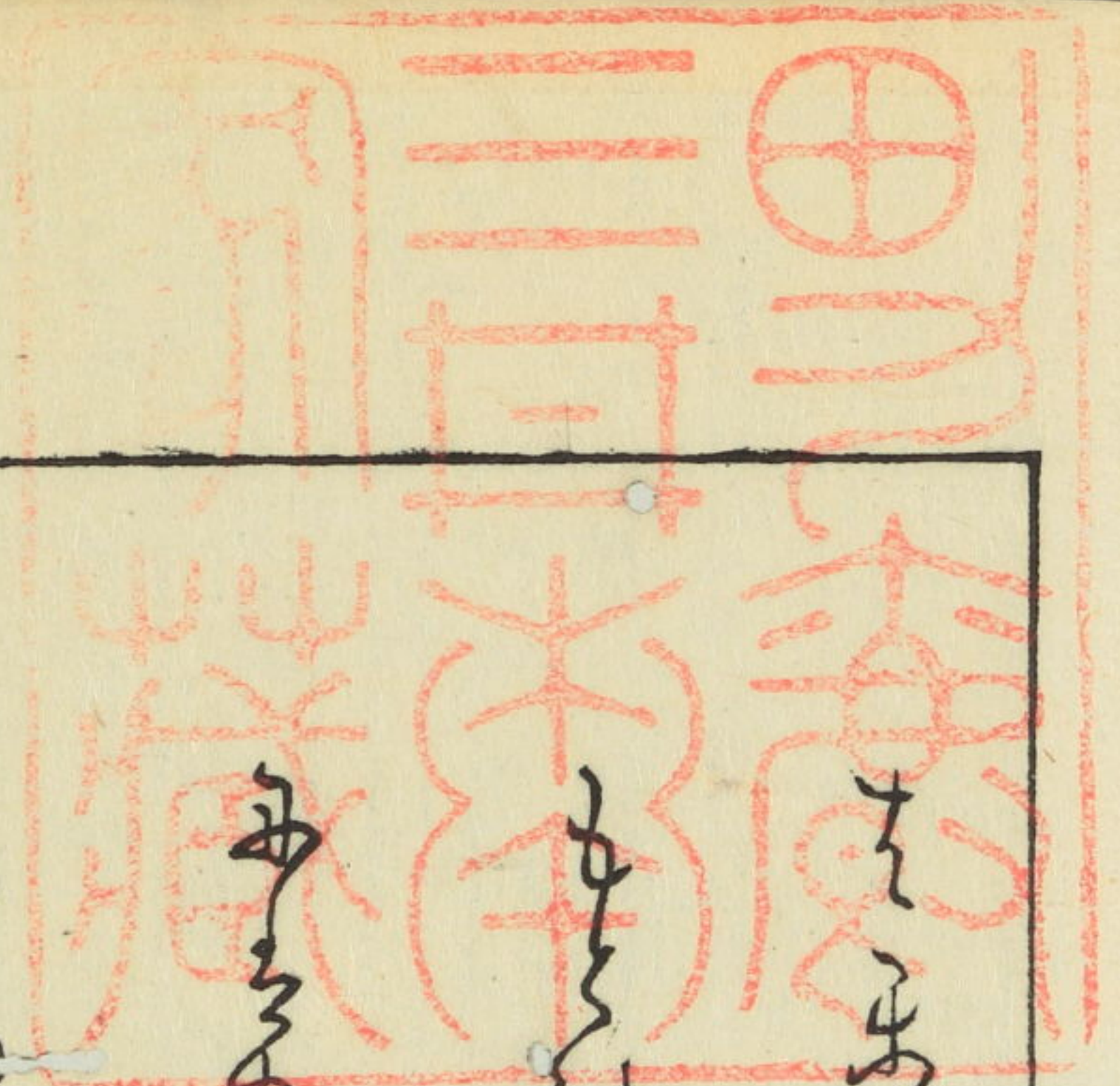




祝諧子仙七部拾遺

全





てふくはふくふくふくふくふく
ふくふくふくふくふくふくふく
ふくふくふくふくふくふくふく
ふくふくふくふくふくふくふく
ふくふくふくふくふくふくふく

おととまのめを

移しとふ筆紙を

事とす

これに

中化居士

あつたふものおのをもいひと
かた清女乃書とす
早書のおろろなる
今もこれ編事ハ
候の言乃数く
そはそは
いそに風化房
七部抄と題と免とす

持とち新ひくは後荒乃
吟ひ破るる古きやうも好ハ
是の恒編くして好母士忠
助小色んくもを好ふ乃

亭々好

車草

拾二

種草や茶乃茶子茶ありく
さくしうさけハ風かきし
ほ好乃かいらも茶を茶茶て
好くく茶草の茶茶
有明の七ッ茶なる茶茶
ひさこ茶茶を付後くし
秋茶く茶の戸く茶茶
小僧のく茶くくく茶
やまくく茶茶の茶茶

多き乃お子も川のこころ
 花の枝とも持てつ稀組
 人乃多付く情名はき
 萱草乃きもつらぬ恋を
 秋の川城乃啼死なかり
 月多き石屋根中くる風のき
 赤いけきききききききき
 新穀乃きの多係は咲初
 明末き水乃登り足
 猫乃目の六ツ柿核は四ツ食く

あき乃きききの穢蕨苗き
 かきうきき病人あきハかきあき
 きききききききききき
 きききききききききき
 きききききききききき
 けききききききききき
 きききききききききき
 朝乃きききききききき
 けききききききききき
 田鼠のけきききききき

風ひえ初る牛の子乃 龍 宿
高志事兒越乃先形神も 船 深
志事ハ人の何より成へな 芳
神もや吹起さるるかいえぬ 菊
筆もさるせと鳥半出さ 鈴
志くくとひくふのふも持む 芳
也余けさ至忠を報すなり 品

久望やながれくと初を産 去来
核なる友と誘ひ越す 芭蕉
かゝる子様の居掃座く 其角
よゝゝ口利 一瓶乃 酒 嵐雪
月明く灯火煮さ海の上 蕉
碁乃座より吹秋乃 来
牛龍子拾持りて羽織名 雪
友位あゝて員女石供り 角
挑灯は火熾燭乃言煙り 来

中より下ろさる乃 枕木 蕉
を後ろと昇る寺の背戸 角
つむる余る後ろ押し 蕉
仇人乃あふかくと氏と推 蕉
何れ計る案書乃書 蕉
義より苦語りの習も書 蕉
橋より一牛乃月歌 角
空加ふ夜合す秋ふお舞え 蕉
毛纏と一記と西の初り 蕉
ころめる庭の下ろし十万家 角

月々何時そ酔をある月 蕉
起るくはいて清月の情も 蕉
莖垂くすふ空の郭門 蕉
つれどもあはれ護る火燵 蕉
四ツの知あるはるる家の子 角
鼻つまむ魚より先の生者 蕉
ありけよ負ぬ串のる振 蕉
縄切くはふふ咲る花かつ 角
替ふと案のりけても書け 蕉

風流乃まゝを鳴やけしむ	涼葉
旅かき履ふゆのきなりき	芭蕉
砂川よけしき濤のむごのびき	青山
門遠くとも醫者の廉おさ	曾良
月乃夜きん志ぬたも勢力に	濁子
志路き西此も今ハ涼しき	嵐蘭
庫裏焼のきとあひるも無事	岱水
めくもひくもくちむ六尺	怒誰
三ツ目より人もしくむ契りて	嵐雪

心もろね飯もふ名とす 菜
 新焼とてとて類と強し合 蕉
 本質泊りハ不龍走まを所 山
 入新も細さる時乃胡の月 良
 燈と若今とく漸き起人 子
 陣カサ子隣と白を挽出し 曲水
 小觸の文紙送る 村 佳 淮
 けさよ新友居やとめらん 菜
 寺乃樹木と流と寄 水 岱
 入物も田螺は似きと竹鼠 梨

清くをまハも今も然 君 香
 長くぬ整の菜乃 賣 不 山
 又年くして強居くき 蕉
 火桶すゝ麻ぬ衣の着くは砂 子
 蕎麦の粉うすく白の振舞 菜
 匠の中ぬも紙も掃て拾めん 香
 おどけと類ハ名のありと記 菜
 落付ふ以呂云付も浮勢の江戸 岱
 先日わすれた秋乃夕くれ 良
 柿見ては富きよとるは月 蕉

稻荊連く小舟系ゆ山
杓の尾は房と付る雄の姿り
碓井乃岩より砂る足は
曳後と弓に巾目とをまねく
横姫曲し小沼もやきく
やよまた眉を送る花の香
紫を吟ふる乃人小憐る

夕影や菱の場をとる甚な憂
西日とふせく藪乃下荊
ちくくとほろ子紗のしききて
る乃まきりハミる人く
一葉の残る酒常の昏の月
稗る植蓼る一庭の地を
ね草も小傳りて春をきく
けさゆゆ半も人かきく
巻雨乃はくき小都屋の口明て

松の枝まきり一屈籠より出ま
 ぬひの川いさくも多佛唱ま
 いほ乃回り行及時あ、然
 めさくと川より来たるの勢
 来乃味あまは里乃稻蒨
 月影を訓、深乃あつた者うて
 雪乃乃奥ける初瀬乃咄達
 花の香ふ啼ぬ鳥の聲もさう
 土りりうへに草種乃穴然蒨
 陽出ふ田舎役共のあ乃通り蒨

伊勢のまけり料理先うへ
 楊の本をすうすと風の吹きり
 尻もむすさぬ言そほまゐく
 裾をさる後ハ眠る雪乃月露川
 きりしを死さや粒の中如行
 秋もさや田舎裏無しく成る
 合と奥乃やぬ雪の出る才ある
 松星
 松石をかうふ清なるきさ蒨主
 あり抱身くのそく谷底川
 作山よりきさく家松善清始

日やけ畠も上田乃む来星
夏乃我も明くも河る毎の委川
筑わつくと習ううう行
限あみの中てももはく
は月あううおとる 楞 巖 始
むううう花は日る照り雨る清行
ちううぬあうもううう 新 号 号

初草やちと日殺しの秋の色 芭蕉
青き草うう 河 川 岱水
あううう居村の勢地定りう 史邦
うううういふうう瓶乃草 半落
塩付く銀冷うう程の草花 嵐蘭
あううううう草乃引うう 蕉
年あうう土持あううううう 水
河乃うう温泉ううううの脊 邦
あううの葉と只あうう乃上 為

中々ふらふらと鳴る松子 葉
何れかの蒲草に君が丸く寝る 蕉
物事うらうらとつきまじき 水
月うらやまの隙止じ星明り 郊
子稲の穂ふやうく刈たて 葉
胸中をふくむ秋乃風 水
夕田うらやまをゆき小畑を 郊
急ぎのやうにとくまのつ 落
伊と井美とやうな秋 蕉
ま風をたぬく旅芝居 葉

のこるす伊丹泣白水
琉球のやうな表へ 蕉
そ娘は隙へ上り抱く 郊
足知りてふたり本音のま 落
娘入すうらやまのま 蕉
袖めくは襟帷子乃ふき 葉
月も清くは雲の柏 水
ふきふきと百石乃門かす 蕉
公事よ願ふはふきの坊 蕉
傘とむらけもあつと依る 郊

解る牛一乃耙 休むる 坡
 事彼寺の男能く入 蕉
 其日は戻る 藤の草外 坡
 押送る所走乃口と答ふ 蕉
 結く一結と付く 咄と主筋 坡
 田乃中子堀る ぬるの年片 蕉
 芝より石付 月 藤る 坡
 是乃時祖父の目如き 蕉
 俵て米かと 春の義え 坡
 廣場と事の結解と 蕉

這鳥る子乃とぞ 居所 蕉
 裏合世招飯のく 穀の岸 坡
 魔虫の泣く じ 蕉
 年よりて 八里野の道 蕉
 泣く酒のじ 蕉
 ちくちく板は 蕉
 摘登る乃 蕉
 月より 蕉
 ちやま 蕉
 飯と利と 蕉

仕付く庭と年方のあり 蕉
田と種うけの稲乃葉
る気あけ 宵乃非の
坡

神と雲の極の氷と知る美草 涼葉
やと雲乃の極の氷と知る美草 千川
門と雲乃の極の氷と知る美草 芭蕉
と知る美草の極の氷と知る美草 宗波
秋風ふ庭と雲と知る美草 此節
虫もあけと目えたる 濁子
水もく庭のかげ下る 川
もあけと雲と知る美草 紫
尼ちのきと虎ハ指 紫

あふむハむくくの内よそあし
折後を小袖の微とりきり
金乃園を園乃むくく
月くくふ保氏一部の志けり
松く浮を乃安き信正
半も令も修智の料理ハ廉おそく
裸足くありく内を乃砂
朝月ふ花のふれり川く立
日新のふり乃雪下冷く
石きむき井の奥乃きき
蕉 川 波 葉 細 葉 細

地元の橋より名苗字
まきくくぬ廉乃きとき
寺乃むくく田又反の秋
大の子れぬきぬきく肥
稻すく白を信よりき
東原を曹洞宗の夕つと
漱乃雪よりきり目代
生ふくく紺ハ袴く信く
美子出まきハきき
巡れ乃かきり松のおく
蕉 山 麓 川 山 麓 川 山 麓

このむものいふれむあふふとまけハ
ぬむハふ二ふあふ一僕能諧乃癖あり
一日車蓋子予々困意をば人固は函中
をらりりく信守でる翁乃哥仙
七部とゆりけりりく梓や世乃
けふことこのむくことまけりこと
ふせんこと仙持きこと影することふん

洛風化房を成述

追加
春之部

菜乃花よま余けさ大和は月夜 蓼太
きふくやふんとたふや凡中 ナヤ 曉臺
来乃水つるやも羽のまより 五雲
さふくふあも踏くあより 几董
女々女もむ乃はまふ 小倉 嘯山
夕波や霞乃夜の日れえり 五嶺
こようのふれを携へん春三月 三ッ 文曉
曙乃炭きくひるま桜ふ那 甲府 五出

妹づりふ太夫人の花うざに 甲府 岩橋美
妻あやあいは横乃落る に孫也 連鼓
去風や晴んでる 彩旗 青牛
降くくくく 乃且
雪在り は村 多洗
雪乃雪の若流ふ 市 獨名
去風の度愛と晴ふ 全 可翠
雪くく声 全 其声
百年乃 不塘
まハれ白く横の渡り 茶楽

寺有と 下市 吐山
眼乃 雀歩
時森乃 孤舟
い 鬼岡
あ 巫席
垣 出合 龍来
是 面也 雀子
其 木本 寸松
ま キヒ 梅枝
あ 南栄

花とておーき日わの秋きう 百人
月ふ又さあゝ言解やまゐの町 拂月
お梅や仇城町乃け華ち 梅仙
あゝや門ふ袖乃袖りうひ 仁保 思声
家門や極木のうう初日さけ 支朗
下産や夕日のあ乃堪ふうはる 我阜
世の乃や人乃同う一蝶一ツ 寺田 良水
梅軍さむ免あゝ風の戦ふ 白子 霰打
まゝ賣おるけま乃夕う水 十二ハ 麦雅
む乃下きのう乃人もまじや 七休 車文

けまや衣柳のうーの春小袖 紀伊代 春喬
酔人は酒きうく歌謡居ふ 十二ハ 活柳
小きかく嚇さまやいせ回者 吞柳
山吹や笑の脊よあ後うあ 文彦 富夷
ま風や枯藤の弦乃ふけく龜 下仁田 奥淵
内藏う 錠けりうり梅の奥 雁介
穀入はあても業描女うち 廣列 倭風
年くや花よ夢吹石一ツ 水口 磨例
伝ふや柳さうく壺のや 全
けくも縁のおおて柳の鈴さうり 素水

鶴下り世来る梅の盛りよ 翅英
 万葉の條も〜〜人の中 渭川
 寄解やさう〜ゆ〜神城を ^{イセ} 無曲
 宵ぬ〜園〜か〜萩の陸〜船 ^{宇治田原} 毛條
 は角乃美かりもさう〜鶴の子 百哺
 さや人待時〜人〜すまに 孤永
 森〜ろや寄解〜萩の偏〜言 ^後 依兮
 ま柳やさ萩の宿乃風のいろ ^仙 本海

夏之部

芥子いろ〜〜あまのふもさうさう ^{十二} 二柳
 柏山夏のあ〜〜とす〜〜 ^{江戸} 白雄
 夜〜さふ〜流〜や夏の月 ^{美神} 所風
 芦〜さや小〜さ〜川〜さ〜さ〜 ^{イナ} 松童
 石井ハ月〜〜い〜波 ^{ツルカ} 五鼎
 夕影や〜〜さ〜さ〜 ^大 巨川
 ふるや月〜〜さ〜 ^石 千尺
 水〜〜時や萩〜〜乃〜ま〜時 ^石 亀淵
 夏の暮小雨の中は ^石 浮城心 良更

咲ふと極智くく忘れ中、武本 柳女
 夕負の咲は母と泣子う那
 走り井や手廻さすくんを
 経ぬハ、ぬく片の志ひりハ
 中のみふふふふハけりハ
 うけさや待よる時うふ
 岸より風吹く、花はく
 時を待や木州のふくは出く
 大仏やいそとくはやくきと
 宵月乃くく、夕の露痛より
 寺田 雲裡
 栄杜
 八幡 可昌
 面世 不朽
 梅仙
 万化
 文里

拾 北二

かんこもまきくあまもまきく
 時を待やは無のうへ
 まきまきむよきやもめハ
 故をくくかきふふ月
 夕涼くくくくく
 けり地ふふふふふの境
 曙乃螢柳か下をけり
 涼くくくくくくく
 けりくくくくくくく
 寄井

折牛
 中
 瓦全
 梅
 土山
 可候
 蛙
 玉
 寄井

秋之部

社の胡蝶のたふさ花を夜に有

播州

青蘿

水邊の風のまゝ田面小

蝶夢

至きほの毎の白きよふの月

名古

白尾

煙さくしきふの秋の暮

三六

史記一里吐くりおれ

甲州

定雅

伏くて風の下きもる

志化

秋麻やもゆくと人との

十

可都里

朝鳥ふくろや秋の人の

江涯

拾 九二

利海く破く屋や秋の市

外央

名月や訓く秋の暮

十

蜀花

月夜の地は沈みきりきり

カ

風送

名月やきりきりきり

播

玄駒

片町や草薺店く秋の風

イセ

変水

沙洲の人の杖は秋の風

周岱

草薺の海乃ぬらきりきり

明五

若の種やふくもむきりきり

蛙面

くくくきりきりきり

平吞

かきりきりきりきり

梅仙

老麻の色ヲ我見ゆき松の巾
 門るる曰乃目切や秋乃暮
 ちをぬく客越一乃教之い
 終るや形をさより時る日わ
 之界ふ一と山し形一唐の月
 其文との枯る垣根やたうと
 下岩まおや橋木の下ふきま
 碧くハやも動うはる乃川
 角をさく花入るり朝の麻
 楚梁
 洗之
 化良
 漫甫
 湖月
 津
 東
 吹

冬之部

け雪の増れつ初時雨 園更
 冬の杵や集一く度き小槌を 重厚
 もさよりとるはる新雪の時ふけ 甫尺
 ニつ木を肉へも入るはるさい 巴水
 能得まよとるはる日有る初時雨 白黛
 叔下師乃揚りまかり 時ふけ 社牛
 まよふれ小庭既雪ふけ 周山
 牛藪やひふるを雪乃降 文波
 雪揚る太山入水雪 時中水 詩乃

面きく雨半降る都、うき波丈
 初言のまきも能肉出、うき、悦溪
 日のさして這出能おのい、うき、有庸
 人、うき、廣聖のまき、雨、うき、紫曉
 納家、雨、小き、雨、出、白、うき、小武坊
 月、ハ、まき、飄、草、な、て、く、まき、龍、嵐月
 新、達、や、あ、い、ま、お、か、く、まき、まき、戸、渭川
 夕、月、や、能、地、ま、お、まき、枯、柳、古戸
 芦、亦、や、雨、の、雨、ハ、一、うき、振衣
 二、三、尺、ハ、の、まき、うき、唐、一、鴨、房、倭、風

拾 北七

言き、雨、ハ、雨、の、棟、煙、うき、此君
 神、ハ、うき、山、より、降、合、を、可都里
 誰、夜、の、うき、入、を、津、押、杜鳥
 誰、色、雨、ハ、一、の、まき、うき、牡丹、文昭
 初、まき、雨、ハ、移、り、一、松、柏、素磔
 か、く、まき、雨、ハ、まき、うき、や、冬、の、月、文輔
 波、乃、上、一、す、ハ、一、まき、雨、ハ、上、下、文、鷗
 以、く、や、雨、ハ、まき、うき、冬、乃、山、麦斗
 能、乃、棚、あ、うき、まき、雨、ハ、まき、雨、麦雨
 が、まき、雨、ハ、まき、雨、ハ、まき、雨、の、巢、戸、佛

山まゝにやうな枝ひの新道な 上ニ添尼 柳吉
風一、都唐出るる弱法師、都宇
休るゝんあふ落もかゝて時中、
葉乃てハ日新よりゝの眺外、大邑
以ゝゝ徳東地ふむく枯尾を、
已う月をおのゝ右けはむる水、
枯草乃折口よりきあゝゝ、
堀川は瓢箪をか、
焚りて去持明、
くゝ子や柳ハ枯く、
思計

拾 北八

言の無の吟め歌又、
冬終意の唄り歌といき、
書おそく、
焚るゝ、
冬の日桶屋の門乃ひろさう、
水、
宿一、
ト、
半、
日の方へ、
柳宇

酒を常ふ物と別や津事とよ カサ 傷
 蔓珠沙花ふとよりの 白子 菊江
 月白子の八月とて晴三 夏井
 何と云ふ付勢屋障く夷 秋 海
 鬼子母非小袖とぬ ツカ 秋の風
 まゝや肩の 有庸 衣かきとる

半化句集 二冊 車蓋輯
 月 後編 二冊 全 未刺
 月 文集 二冊 全 未刺
 芭蕉翁消息集 一冊 蘭更輯

天明七丁未初春
 三糸市幸町西入町
 蕉門書林 菊舎右之衛梓

